

コリント第一15章51-52章「変えられる体」

1A 来臨の時の栄化

1B 眠った者の復活

2B 生き残った者の変化

2A 栄光の体

1B 死ぬべき体

1C 地から出た体

2C 朽ちる体

3C 卑しい体

4C 弱い体

2B 永遠の住まい

1C 御霊の体

2C 朽ちない体

3C キリストに似た体

4C 力ある体

3A 御霊の助け

1B 御国の先駆け

2B 御霊の執り成し

3B 神を愛する者へのご計画

本文

コリント人への第一の手紙 15 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、15 章の前半まで来ていました。先週、1 節から 34 節まで読みました。午後礼拝で 35 節以降、後半の部分を一節ずつ見ていきます。今朝は、51-52 節に注目します。「⁵¹ 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。⁵² 終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」

パウロは、15 章において、コリントの人々の一部に、死者の復活を否定している者たちがいたので、そのことに対して、福音というのは、死者の復活に基づいている良き知らせなのだ、ということを伝えています。キリストがよみがえり、それからキリストに属する者たちが死んでも生きるのだ。そして、天地が新たにされて、キリストによってすべてが神に服するのだということを話していました。そして 35 節から、新たに、そうした死者の復活を否定する人たちが語っていることを取り上げています。「³⁵ しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」と言

う人がいるでしょう。」

これは、嘲るような形で語っているのです。私たちの今の体がよみがえるとしたら、非常に不都合なことがいろいろあるではないか？例えば、人は土に朽ちてなくなります。その土から、草が生えます。その草を、牛が食べます。その牛が乳を出します。そして、その牛乳を人が飲みます。それでは、復活の時が来ました。先に死んだ人のからだは、もう一人の人のからだの一部になっています。どうすればいいのですか？というような問いです。似たようなことを、サドカイ派の人がイエス様に尋ねました。生前に七人の人に嫁いでいた女、七人とも死に別れたのですね、それで七人も夫がいたのですが、復活したら誰の妻になるのですか？という問いです。それは、今の肉体の体だけの事しか考えていないからそうなるのであって、新しい体が、そのような今の体の制約を受けるような体ではなく、神の国に生きるのにふさわしい、朽ちないからだを与えられるのだということを、15章後半で話しています。

ところで、人間の歴史で、今の肉体の制約を超えて生きたいと願う思いは、古代からありました。中国では、「不老不死」という言葉があります。不老不死を得るための薬が、始皇帝を始めとして、歴史の中で登場してきます。それは、現代に至るまで続きます。普段から、「若返りの秘訣」という言葉が使われていますね。衰えていく体が若返れば、少しでも長く生きられるからです。そして科学技術が発展して、SFのような世界にその願いが投影されます。人体冷凍保存です。未来に、遺体の細胞を損なうことなく解凍して治療ができる技術ができることを期待し、その時に解凍してほしいという遺書を残して、死後、冷凍保存されています。

そして、機械の体を願って、アニメ「銀河鉄道 999」がありますね。機械の体を求めて、それを手に入れることのできる星に向かって、鉄道が走っているのです。この機械の体は、今は「ネオ・ヒューマン」と呼び、近未来の実現に向けた実験が進んでいます。ネオとは新しいという意味です、簡単にいうとサイボーグのことです。イギリスのロボット工学者である博士が、全身の筋肉が動かなくなる難病 ALS にかかって、余命 2 年と宣告されました。それで、自分の体の機能を次々と機械化していっています。AI や VR の技術も生かして、自分の意識さえあれば、何でもでき、自分の意識がなくなっても、AI によって残り続けるという世界を、かなりの現実性をもって夢見ています。

NHK でその人にインタビューした記事と動画がありました。¹彼の胸に付いている、彼自身の顔のアバターが、彼の意識に合わせて語っているのですが、そうした姿を見ながら、ふと思いました。「これ、新しい挑戦でなくて、はるか先にすでに実現していない？死後も生きる体が欲しいんでしょ？衰える体から、朽ちないからだ欲しいんだよね？しかも、機械の体などという無機質なものでなくて、復活の体があるんだけど。」新しい考えではなく、実はずっと語り告げられていた、イエス・キリストによる、復活の希望があるのです。私たちは VR で映像をみる必要はありません、信

¹ <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4611/>

仰によって、みことばによって、VR よりも、確かで、鮮やかな希望の幻を見ることができています。

1A 来臨の時の栄化

私たちは、神の救いについて、ロマ書でじっくりと学びました。「8:30 神は、あらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」救いとは、神に対して罪を犯して、神から引き離されてしまったものを、引き戻されて、神の似姿に回復することです。まず、罪から来る報い、神の怒りからの救いです。罪に対する神の義は、キリストが身代わりにその怒りを十字架で受けてくださって、満たされました。義認と呼びますね。そして、私たちの、罪に支配された古い自分はキリストと共に十字架につけられ、死に、キリストと共によみがえり、新しい命が与えられました。罪の力が、私たちを支配することがなくなったのです。私たちは御霊に従うことによって、罪を犯さなくともよくなりました。罪の力からの救いです。けれども、私たちはこの体の中でうめいています。なぜなら、この体は、罪を犯したアダムから受け継いでいるものであり、罪が留まっているからです。ロマ書で、「8:23 すなわち、私たちのからだは贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。」とあります。その体が、栄光の姿に変えられるのが、救いの完成です。神の似姿に、その栄光の姿にキリストにあって変えられます。それがここで、パウロが言っている、「義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」と言っていることです。

1B 眠った者の復活

ところで、パウロは、「私はあなたがたに奥義を告げましょう。」と言って、栄光の姿に一瞬にして変えられることを話しています。奥義とは、これまで隠されていたけれども、キリストが来られたこの時代には明らかにされているということです。主を見た使徒たちには明らかにされたことです。

旧約時代の聖徒たちは、自分たちが死んだ後、終わりの日に主が戻ってこられて、よみがえらせてくださると信じていました。そして、その義のからだを手にするのを信じていました。「ダニ 12:2-3 ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。3 賢明な者たちは大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のようになる。」そして、このダニエルの預言を取って、ご自身の声を聞いた者たちがよみがえることをイエス様はお話になりました(ヨハネ 5:28-29)。

そこで、ラザロが死んだ後に、マルタはその信仰をもってイエス様に答えました。「ヨハ 11:24 終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることは知っています。」しかしイエス様は言われました、「11:25 わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」つまり、イエス様は、ご自身が来られたということで、終わりが近づいた、神の国は近づいたと言っておられるのと等しいです。旧約時代の聖徒にとって、ずっと先の終わりの日が、今イエスが来られたことによって、その復活の時が近づいていると言ってもよいでしょう。ヘブル書の冒

頭がこうなっています。「1:1-2a 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られました。2a この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。」御子が来られた今、すでに終わりの時なのです。

2B 生き残った者の変化

したがって、神によって、復活の体が与えられることについて、大きな問題が出てきました。復活と言っていますから、死んでいることが前提です。しかし、今は終わりの日です。主は天に昇りましたが、すぐに戻って来られます。すると、まだ死んでいないのに、その時に主が天から降りてこられることもあるわけです。そういった時にどうなるのか？その問いの答えになるのが、テサロニケ第一 4 章です。「4:15-17 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」生き残っている者たちも、死者の復活の後に引き上げられます。そして主と会います。旧約の時代も、エノクが主と共に歩いて、死を経ずして、天に移されました。こういったことが旧約の時代には、どういうことなのか明らかにされていませんでしたが、今、この時代、使徒たちの時代に明らかにされたのです。

この時に、栄光の体に変えられます。パウロは、この 15 章で論じていますが、神の国に入るには、栄光の体で入らないといけない。朽ちない体で入らないといけないことを話しています。「15:50 血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。」今の私たちの血肉の体のままでは、天に入ることはできません。そこで生きているのですが、一瞬にして栄光の姿に変えられるのです。ちょうど、さなぎがいて、さなぎが美しい蝶に変わるように、キリストに結ばれている私たちは、そのキリストの美しさに変えられるのです。パウロは、ピリピ人への手紙で、こう話しています。「3:20-21 しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」

すでに私たちは、私たちの主の御姿が変貌されたのを知っています。主は、私たちと全く同じ、血肉をもって、赤ん坊としてお生まれになりました。私たちと全く同じ、肉体の弱さを持っておられました。ところが、高い山に上られて、そこで姿が栄光のそれへと変えられたのを覚えているでしょう。そして、主は十字架の上で死なれて、葬られて、三日目によみがえられました。そのいのちによって、私たちも栄光の姿に変えられて世界に現れるのです。「コロ 3:4 あなたがたのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに栄光のうちに現れます。」したがっ

て、私たちは主の来られることを待ち望んでいます。その時に、すでに死んでいる人はよみがえり、まだ生きている人々は、一瞬にして栄光の姿に変えられるのです。

2A 栄光の体

パウロは、今の血肉のある体と、神から与えられる復活の体を、天幕と建物に比べています。「Ⅱコリ 5:1-4 たとえ私たちの地上の住まいである幕屋が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まいがあることを、私たちは知っています。2 私たちはこの幕屋にあってうめき、天から与えられる住まいを着たいと切望しています。3 その幕屋を脱いだとしても、私たちは裸の状態にいることはありません。4 確かにこの幕屋のうちにいる間、私たちは重荷を負ってうめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのものが、いのちによって?み込まれるために、天からの住まいを上に着たいからです。」イスラエルの荒野の旅は、天幕の中で過ごしました。そして、約束の地に入ると、建物を持ち、定住しました。肉体をその天幕に、そして定住している時の建物を、復活の体に喩えています。

1B 死ぬべき体

私たちの体は、とても素晴らしく出来ています。「詩 139:13-14 あなたこそ私の内臓を造り母の胎の内で私を組み立てられた方です。14 私は感謝します。あなたは私に奇しいことをなさせて恐ろしいほどです。私のたましいはそれをよく知っています。」人体の不思議といいますが、どんなに医学の専門家が究明しようとも、私たちの人体がいかに優れているかを見極めることはできません。恐ろしいほど、奇しいことを神はなされました。しかし、同時に私たちは知っています。それは、衰えるものです。そして、私たちに不便を与えます。自分ではまだ若いと思っていましたが、十年毎に、私は自分の体が天幕であることをひしひしと感じます。40 歳になる前に、ぎっくり腰になり、それから腰の痛みが始まりました。50 歳になる頃、聖書を見ていると文字が見えなくなりました。老眼の始まりです。そして去年、突発性難聴が来て、耳鳴りが始まりました。体というのが、一時的なもの、また制限があるものだと感じます、まさに天幕です。

1C 地から出た体

パウロは、コリントの人たちに、今の肉体をもって復活するのではないことを 15 章で話しています。47 節で、「第一の人は地から出て、土で造られた人ですが、第二の人は天から出た方です。」と言っています。アダムが造られた時のことを覚えていますね。「創世 2:7 神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。」それで、私たちの肉体は、土の主要な成分と同じもので造られていることが分かっています。アダムが神に対して罪を犯した時に、神から離れてしまったので、この肉体が朽ちて、土に帰ると神は宣言されました。「創 3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」私たちは、誰かが死んで、その人の葬儀に参加して、それから火葬場で灰に化す姿を見る時に、まさにこの現実を知ります。土の塵から造られたのだ

から、塵に帰るのだと。

2C 朽ちる体

そして土の塵に帰った体は、朽ちていきます。今、火葬の話をしました。ユダヤ人も、他の多くの人びとも土葬です。日本も以前はそうだったのではないのでしょうか。そうしますと、墓の中でその遺体は腐食していきます。そしてお骨だけになっていくのです。火葬はあくまでも、その過程を早めるだけのものです。

それを知る時に、この体というのは、初めの時から次第に古びていくものであることを悟るのです。この世にあるすべての物が、古びて、滅んでいくものですが、人の体も同じです。ある意味で、生まれた時に、すでに人は死ぬ定めを帯びて生まれてきていると言ってよいでしょう。ヨブは、自分が重い皮膚病に罹った時に、生まれた日の事を呪いました(3章)。この体が朽ちていく定めにあることを、皮膚病の中で苦しみながら思ったのです。そういうことを重く受け止めている人々に、昔から、この肉体から自由になるための方策を考える人々が絶えなかったのでしょう。

こうした寿命に対して、モーセは、神の御怒りを感じました。そもそも、人が永遠に生きるわけではないことが、アダムが罪を犯した後の現実として感じ取ったのです。「詩 90:10-11 私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどは労苦とわざわいです。瞬く間に時は過ぎ私たちは飛び去ります。11 だれが御怒りの力をあなたの激しい怒りの力を知っているでしょう。ふさわしい恐れを持つほどに。」

3C 卑しい体

そして、今の体が「卑しい」ものであると、パウロは 15 章 43 節で言っています。これはとりもなおさず、私たちの体には、アダムから受け継いでいる罪が宿っているからです。ロマ 7 章で学びました、自分のしたい善をすることができず、悪を行っている自分がいるということです。「7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」

4C 弱い体

そして私たちの今の体は、「弱いもの」だとパウロは言っています(15:43)。弱いとは、身体的に弱いということもあるでしょう。疲れやすく、喉も渇きます・イエス様が肉体を取られた時に、サマリヤで、井戸のところにおられたのは、疲れておられたからです。また、女に水をくださいと言われました。そして、弱いとは、神の律法に従えない肉の弱さもあるでしょう。そして、神のみこころが分からないという弱さもあります。「同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが・・(ロマ 8:26)」どうやったらわからないので、どう祈ったらよいかわからない弱さです。

このように、私たちの今の体が、いかに、すりきれてしまう天幕のような存在なのかがお分かりになったかと思います。

2B 永遠の住まい

そこで、パウロは、このような血肉の体が死ぬことによって、初めて、よみがえりの体があるのだということを論じます。それは、種ですね。種は地に落ちて、土の中で発芽してこそ、そこから芽が出て、茎が生えて、葉が出て来て、そして実を結びます。イエス様が、ご自身が死ぬことによって、多くの実を結ぶことを、種に喩えられました。それと同じように、私たちもこの肉体が朽ちることによって、初めて、復活の体が与えられるということです。

1C 御霊の体

初めに、アダムが土の塵から作られたと言いましたが、47 節には「第二の人は天から出た方です。」と言っています。イエス様は天から来られたからです。この体は、アダムから来ていますが、新しい体は、天から、イエス様によって与えられるものです。それは、血肉のものではなく、御霊のものです。つまり、天において、神の国において違和感なく、調和して生きることのできる体ということです。

2C 朽ちない体

そして朽ちる体が死んだら、朽ちない体によみがえります。これまで、旧約の預言者がよみがえせたこと、イエス様がよみがえらせたことがあります。エリヤやエリシャや、男の子をよみがえらせました。また、イエス様は、ラザロを始め、何人かをよみがえらせました。けれども、よみがえったのは、今の血肉のあるからだでありました。朽ちない体によみがえらえたのは、イエス様が初めてです。朽ちない体に、永遠に生きる体にイエス様はよみがえらえました。そして、私たちもキリストにあって、朽ちない体によみがえるのです。

3C キリストに似た体

そして、卑しい体で死ねば、栄光あるからだでよみがえります。栄光ある体というのは、神に似た体、またキリストご自身に似た体でよみがえります。使徒ヨハネが、私たちがキリストに似た者になると言っています。「Iヨハ 3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。」

4C 力ある体

そして、肉体にあって弱い体でありましたが、これが死ぬと、力ある体に変えられます。それは、キリストと共に世界を相続し、この方と共に統治するところの体です。「ロマ 16:20 平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。」このように、力をもって、キリス

トにあってサタンを制することができる体を与えられます。

3A 御霊の助け

1B 御国の先駆け

私たちは、その時が来るまで、御霊に満たされて生きています。「聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。(エペソ 1:14)」保証というのは頭金のことです。私たちは、御霊の働きによって、御国にあるものの一部を受け取っています。ですから、例えば、御霊による癒しの賜物があるでしょう。御国においては、すべての人が癒されます。しかし、今、みこころに従って癒される人が起こされるのです。そのことによって、後に来る御国の祝福の一部を味わい知ることができ、御国の証しとなるのです。しかし、癒されない人もいます。それは、まだ御国が来ていないからで、すべての人が癒される、ということでもないのです。

2B 御霊の執り成し

そして御霊は、私たちの祈りを助けてくださいます。この肉体にあって、いろいろな制限があるので、みこころが分からないというときに、言いようもないうめきをもって執り成してくださると、ロマ 8 章にパウロが言っています。そしてうれしいことは、御霊は神のみこころが分かることです。だから、みこころにしたがって、執り成してくださるのです。私たちが、言葉にもならずうめいている時、御霊は確実にみこころにしたがって、祈ってくださっています。

3B 神を愛する者へのご計画

そして、父なる神は、そのような、肉体の中にあるうめきをも用いて、すべてのことを相働かせて、益としてくださっています。「ロマ 8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」復活の希望があります。復活の時まで、私たちの肉に弱さの中にいます。けれども、主は確実に、そのことさえも用いて、私たちがキリストの似姿になるべく、御霊によって栄光から栄光へと変えてくださっているのです。主が戻って来られることを待ち望みつつ、主に明け渡しましょう。